



むと!

# おびにし わくわく通信

NO.58

2024.07.02

文責:荒木

## SNS について学ぶ

昨日1日(月)は、職員研修で、SNS について学び合いました。インターネットが普及し、一人一台のモバイル端末をもつようになり、我々大人たちは手探りで正しい使い方を考え、失敗もたくさんしています。生まれたときからネットの世界で生きてきた子供たちは、さらに予想がつかない時代を生きていくことになるでしょう。



そこで研修では、今の社会情勢に合わせた情報モラルの在り方を中心に学びました。SNS の特性として、文字や絵文字だけで伝えると、そのときの「感情」が伝わらず、相手に誤解されることがあります。昨日は、文字では「おもしろいね」とあるけれど、表情の違う5つの絵文字を「おもしろかった気持ち」と「いじわるな気持ち」とに分けていきました。教員一人一人感じ方や受け止め方が違って、とても興味深かったです。このように、送る側の絵文字の意図が誤解されてしまう場合があるので、相手のことを意識する必要があります。子供たちもタブレットを活用して、「共有」や「発表」を行う場面が増えてきますので、より相手意識をもった活用方法を考えていく必要性を感じました。

タブレットは子供たちの学習道具の一つとして、今後も活用機会は増えてきます。それに伴い、長時間使用による視力の低下等、健康上の観点からも、タブレットを上手に使うためにも自己コントロールする力を身に付ける必要もあることを実感できた学びの時間となりました。

## ●ひこうきぐも★ vol.30

私が遼寧省のある市場で夕食を物色していたときの事です。突然「あなた、日本人?」という声が聞こえてきたのです。久しぶりの日本語に嬉しいやら驚いたやらで、「リーベンレン、リーベンレン(中国語で日本人のことを言う)。」となぜか中国語で答えていました。おばあちゃんから「大丈夫?」と聞かれましたが、どうやら私がよっぽどお腹がすいている貧しい旅行者のように見えたらしいです(本当にお腹がすいていました! おまけに無精ひげに破れたジーンズという格好)。その日は幸運にもおばあちゃんの家を招かれ、夕食と温かい布団をご馳走になりました。



話によると、おばあちゃんは若い頃、旧満州国で日本の軍人の家で家政婦のような仕事をされていたそうです。おばあちゃんの家では、とても親切にしてもらい、今でも日本人に対しては好印象をもたれているとのことです。私は少し肩透かしを食ったような気がしました。

私は東北区の旧満州国での太平洋戦争について、いくつかの資料館を回って調べていました。私の祖父も軍人としてこの地に住み、父も9歳まで満州で育っていたので、資料館を回って行くにつれ、その惨劇に暗い気持ちになっていきました。このおばあちゃんのように日本人である私に対して優しく接してくれたのは初めてだったのです。おばあちゃんは言います。「戦争がいけない。戦争は人の心を狂わせる。どの国の人がいけないというのではない。戦争しないのが一番。だから私はみんなと仲良くする。」遠い記憶を探るように日本語をゆっくりゆっくり話されました。その一言一言が私の胸に深く染み入ってきました。おばあちゃんの言葉で胸が一杯になり、私の目頭も熱くなりました。突然おばあちゃんが言いました。「もう少しここにいるか?」何せ時間はたっぷりある私は、迷うことなく居座ることにしました。

そして数日後、「遼寧師範学校(大学)日本語学科」から大学の講師として招かれることになったのです。この日本語学科の先生とおばあちゃんが知り合いという間柄だったのです。そしてアメリカに続き中国でも講師として教壇に立つ機会を得ました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木がバックパッカーとして旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは一昨年度からの累積です。